

令和4年度第1回 立川市文化振興推進委員会 会議録（要旨）

開催日時	令和4年7月7日（木曜日） 午後3時～4時30分
開催場所	立川市子ども未来センター2階 201・202会議室
次第	1. 開会 2. 計画の進捗状況報告 3. 意見交換 文化振興推進委員会テーマについて 4. その他
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・立川市文化振興推進委員会委員名簿 ・立川市第4次文化振興計画の概要 ・立川市第4次文化振興計画 令和3年度の主な取組状況 ・立川市文化振興推進委員会テーマについて ・令和3年度第1回立川市文化振興推進委員会結果報告
出席者（敬称略）	<p>[委員] 委員長 今井良朗、副委員長 瀧川淳、 宇治康、高木誠、田ヶ谷省三、玉川宗則、都築諒、堀江けんいち [事務局] 産業文化スポーツ部長 井上隆一、地域文化課長 轟誠悟、地域文化振興財団事務局長 加登義哉、地域文化課文化振興係長 瀧研一、地域文化課市史編さん係長 小川始、地域文化振興財団文化事業係長 足立香織、地域文化課文化振興係主任 田中準 </p>
公開及び非公開	公開
傍聴者数	0人
会議結果	<ul style="list-style-type: none"> ・第4次文化振興計画令和3年度の取組状況について意見交換を行った。 ・次回委員会で行う内容について意見交換を行った。
担当	産業文化スポーツ部地域文化課文化振興係 電話 042-506-0012

■会議内容（要旨）

1. 開会

- ・会議に先立ち、事務局より事務局交代の報告があった。
- ・出席者全員の挨拶があった。
- ・事務局より資料の説明があった。

2. 計画の進捗状況報告

- ・事務局より資料を基に第4次文化振興計画令和3年度の取組状況について報告があった。

(委員長) コロナ禍の中で数字的に至らない部分があったのは仕方ないと思う。それでも活動を積み上げる事ができたという事実は評価できるのではないか。ただし、第4次計画であげた重点項目の部分についてはなかなか思うように進まなかつたという感想を持った。今後この部分については引き続き意見交換等をおこない、より積極的に発展できるようになればと思う。

3. 意見交換（文化振興推進委員会テーマについて）

- ・事務局より資料を基に次回委員会の意見交換のやり方について説明があった。

(委員長) 事務局案として上がっているテーマ、また自身の担当についてご意見をいただきたい。また現状での活動状況なども併せてお話しいただきたい。

(A委員) たましんでは美術館や歴史資料室を所有しており、歴史資料室の室長が立川市の市史編さん事業に協力している状況である。したがって担当のテーマについては問題無い。

(B委員) 案で出ているテーマで問題無いが、個人的にあるべきだと思うテーマは情報発信の強化である。議題2の報告を聞いていると、自分が把握していなかった事業・イベントがあった。このあたりの情報を市や財団が持っているならば、その情報を回してもらえば、立川文化芸術のまちづくり協議会の市民ライターに取材に行ってもらい協議会ホームページ「立川ビルボード」用に記事を書いてもらうこともできる。先日、「立川ビルボード」経由で大学3年生の方から市民ライターになりたい旨の問い合わせがあり、実際に会ってきた。その方は立川が大好きでアートにもとても興味があるという方であり、もっと早くから市民ライターの事を知っていれば沢山活動できたと話していた。この話を聞いて、情報発信をもっと充実させたいと思った。情報発信をテーマとして色々考えていきたいと思った。

(委員長) 立川ビルボードも最近はとても充実していると思う。ただ、立川市のホームページから立川ビルボードまでたどり着くのがとても大変である。例えば「文

化芸術」にアクセスすれば立川ビルボードや財団のHPにすぐたどり着けるようにして欲しい。全体が繋がっていない気がする。

(C委員) 先日立川市民オペラのオーディションを観てきた。同じ曲を何回も聴くことになるので本来ならば飽きるはずだが、若い人が練習の成果を発揮しているのが良く分かり全く飽きなかった。しかし観客はあまり入っていなかつたようだ。この状況がすごくもったいないと感じた。若い人たちがこのコロナ禍の中、また、歌はあまり稼げないという状況も分かっていながら頑張っているというのがすごく感じられた。そのように若い人が努力していることに対し、もっとサポートしてあげられないかと思った。立川の事が好きで、立川のために何かしたい、そのように思えるような仕組みづくりが必要なのではないか。色々な動きを吸い上げながら、若者や高齢者または働き盛りの世代がうまく流れていけるような方法を考える専門のコーディネーターがいてくれるとすごくよいと思った。日本は人をうまく使い、目的に向かってうまく流れさせるというようなコーディネーターが足りないと思う。個人的に文化振興推進委員を数期やっているが、当初に比べ立川の文化芸術もだいぶ進んできている。更に進むためにはもっと色々できることがあるのでは、そんなことが議論できるとよいと思う。

(委員長) 今の意見はまさに重点取組事項で上がっているものであり、積極的に進める必要があるものだと思う。今計画以降本気で取り組まなければいけない。

またお二人より若い人達の話が出ていたが、若い人達に積極的にコーディネートしてもらう環境を作るべきだと思っている。今はまだ若い人達を参加させる、という意識が強いが、もっとコーディネーターとして参加してもらうというのが必要。例えば色々な審査会などがあるが、審査員に20代の人を入れるなど、若い世代をもっと積極的に使う事が必要である。若い人は参加者なんだ、という意識が強すぎる。

(D委員) 現在、ウクライナのバレエ団やバレエスクールは大変な状況である。そこの校長先生や教師を呼べないかと考えている。知り合いにキーフのバレエ団の芸術監督をしたことがある人がいるので、そのような関係を使いこちらに来てもらうなどして何とか力になれないかと考えている。立川市はそのような人が來た場合、住む場所を提供するなどの支援はあるのか。

また、今後戦争がどうなるかわからないが、キーフのバレエスクールに通う子供たちを呼んだりできないか、とも考えている。

話は変わるが、7月にバレエ公演を行うが、今回、出演者に自閉症の方がいる。計画の重点取組項目にも学生・若者・障害者等の文化芸術活動への参加促進と

いうのが上がっているが、今回の件もいい傾向だと感じている。

(E委員) 「青年会議所の文化芸術活動との連携・交流」とあるが、これは青年会議所の活動を報告すればよいのか、青年会議所がどこと連携しているかについて報告すればよいのか、どちらなのか。

(事務局) 過去の資料をもう一度見直して整理したうえで後日お伝えします。

(E委員) 現状について話すと、よいと祭りで使用する提灯の絵付けとグラスキャンドルを子どもたちにお願いしている。提灯はたましん RISURU ホールと立川駅の改札前あたりに展示予定である。

(F委員) アール・ブリュットの活動内容についてはいくつかあると思うので、それらをまとめて報告したい。

(副委員長) 所属している国立音楽大学は立川市にあるが、併設されているホールは隣の市の住所となる。コロナ禍においては立川市ではイベント開催でも色々制限があったが、隣の市ではあまり制限が無かったのでホールでは活動していた。

文化芸術活動についてだが、地域や社会に向けて発信するという事を今年度より大学でもかなり力を入れて進めているところである。その一つの取組として「大人のアトリエ」というものがある。大人対象のレッスンや、大学の講師、学生と一緒にアンサンブルで音楽をする、という事を料金は発生するが行っている。それと併せて市民講座という形で音楽の座学系の講座を開いていくこうという取り組みも始まる。これらのこととは随時委員会でも情報提供できると思う。

計画をみて感じた事だが、「文化芸術ではぐくむだれもが楽しめるまち」の「だれもが」が計画をみていると若者中心となっている気がする。個人的にも若者に教えており、若者に向けた発信を意識していた部分もあった。一昨年まで約4年間熊本において、熊本県立劇場の事業評価委員をしていた時も若者にもっと芸術を普及させなければいけないという事を言っていたが、その時の館長に、文化芸術というのは全体の世代が平均して優劣なく集まれるものでそこが良いところである。今の老人はとても元気でパワーがあるので、若者とコラボできればみんなが楽しいというまちづくりにも繋がるのでは、と言われ、確かにその通りだと感じた。そういう意味ではすべての世代に語り掛けるような、そのようなテーマがあればよいと感じた。

また、発信という面でコーディネーターが必要だという話が出ていたが、その通りだと感じた。提供者・コーディネーターを育てるというのはとても大事な事であり、自身も熊本でアウトリーチを専門に行っており、学生や社会人のアウトリーチをする人たちを育てるという事をやっていた。その人たちがそこでアウトリーチをできるようになってくると、その人たちが中心となって地元

で人を集められるようになり、その輪がどんどん広がっていくという事ができる。そういう部分でテーマとしてコーディネーターを育てるというのがあっても良いかと思った。

(委員長) 確かに若者の話題が良く出ている。実際はすべての世代が対象になっているが、支援というとどうしても若い作家をどう支援するかという話題になるので、若者が前に出てきてしまっているところはある。話にあった通り世代交流というのはとても大事なことで、私も以前地方で活動した時は、高齢者と子供、そして間の世代となる親、というのを必ず間に挟んで、そこが繋がるようになっていた。そのようにしないうまく繋がっていかない。そういう意味では、コーディネーターも若い世代だけではなく、さまざまな世代で必要となってくる。

(委員長) 残りの時間も少なくなってきたが、ここで事務局からも少し話を伺いたい。

(事務局) 資料とともに配布しているが、多摩フレッシュ名曲コンサートが実施された。最優秀賞に選ばれた方は現在高校2年生で立川市在住である。中学校の頃からコンクールで賞を取っており、教育委員会から表彰されたりもしていた。そのような若い人がフレッシュ音楽コンサートで賞を取るのがとてもよいと思った。フレッシュ音楽コンサートの入賞者には入賞者リサイタルという形で支援をしている。入賞者リサイタルで発表をしている人はどんどん増えており、入賞した人同士が自分達でジョイントを組みコンサートを実施し、それを財団で支援する、という流れも出てきている。若手アーティストの支援という部分で財団はそのような支援を行っている。

また今年度の事業として、畠田丹陵生誕150周年記念の絵画展を開催した。ここでこの絵画展を開催したことでの全国的に畠田丹陵の研究をしている人達からも注目を浴びている。このような絵画展は財団としても初の試みで、開催にあたってはたましん美術館の方にご協力いただいた。このような形で立川ゆかりのアーティストに焦点を当てる、という活動も行っている。

(事務局) 市史編さんは平成27年度から始まって8年目となっている。成果としては現在のところ12冊発刊している。すべて出揃うのは数年先となるが、そのような成果を今後文化振興計画の中にどのように活用していくのか、そういう観点から今後ご意見いただければと思う。

(事務局) 現在、たましん美術館で立川市とたましん美術館共催の所蔵絵画展を開催している。今回のことときっかけにたましん美術館とは今後も連携という部分で色々行っていければと思っている。

別件で、立川文化芸術のまちづくり協議会で文化芸術活動を行っている市民

団体を支援する臨時支援金を今年度も秋ごろ行う予定である。コロナ禍での活動を下支えできるよう支援する予定である。

(事務局) 立川文化芸術のまちづくり協議会で行ったアーツカウンシルの先進事例の視察に同行した。その中で、先ほど話題も出ていた地域のコーディネーターの育成というのが重要だと感じた。現在まちづくり協議会もアーツカウンシルのような活動ができるよう検討しており、今後うまい仕組みを作つて展開できればと思っている。

(委員長) 残りの時間で自由に意見交換を行いたい。前回の書面開催のまとめをみると色々な意見が出ていて興味深かったが、そのあたりいかがか。

(副委員長) コロナというものがあつてから、我々の文化の伝え方というのが大きく変わったと感じている。その中でコロナだからこそ促進された発信の仕方、ネットを介したオンラインでの発信やアーカイブ化など、そういったことはコロナ禍の中でかなり促進されたと思っている。デジタルアーカイブは劣化せず、海外からも気軽にみられるという点もあるので、資料などは整理・整備しどんどん発信していくべきだと思う。コロナ禍だからこそ促進された部分を今後も活かしていくべきだと思う。

(委員長) コロナ禍での2年間で連携の仕方、発信の仕方、アーカイブの作り方・見せ方、このようなことが今までとは違つたやり方が必要だというのを感じた。また、アーティストの支援についても、従来の考え方だけではなく、何が不足しているか、どういうことを求められているかという部分も見えてくるようになった。支援の内容などについても改めて考えていく必要があると感じた。

4. その他

- ・報告書について、報告は枚数にこだわらなくてよい。報告が複数枚にわたる場合はA4一枚程度の概要を頭に添付する。また提出はメールにて行う。

副委員長より挨拶

(副委員長) 色々な取組について確認する事ができた。計画を見てみるとそろそろまとめの時期に入る頃で今後総括などもしていくことになると思う。色々な意見を聴きながら協力していきたいと思う。